Candy
in the Heart
602

僕は後悔していない

僕は、一心に、彼女に会いたい為に行った。
それで、会えてうれしかった。
これが最初で最後の、彼女と二人だけの
出会いになるかも知れない。
僕は彼女と話が出来ただけで良かったと思った。

多分、割り切ろうと思っても、
彼女をそうすぐに、忘れられないだろう。
最悪の事を予想し、そうなった気がした。
僕が、思い恐れた状況、状態に、案の定、なった。
これが、一番、今の僕に望ましい状態なんだろうか。

人、誰もが通る人生の、自然な流れなのか。

これからは、夢想の愛人として、
彼女を自分の心に留めて、新しく、対象人が
変わるまで、それを持ち続け、ひたすら、
勉学に力を入れ、大人が言う様に、
いずれ、彼女を忘れ去り、大人になって、
すべてを忘れ去る僕となるのだろう。

僕はそう思うと、悲しくなる。

いやだ。

僕は彼女へのこの気持ちを忘れたくない。
僕はただ、彼女に会いたい、そばにいたい。
彼女のそばにいて、彼女に会っている時が、
僕は一番幸せなんだ。

602

120 僕は後悔していない・・・・・・・・・・・・・574

萩原良昭